

2004年6月の日記

Dollar ***** Thousand ***** Hundred Only

20040601



朝、ドライバーと庭師に給料を渡した。彼らの健康が自分の健康を決めるので、十分に手当てしたいが、相場から離れすぎないようにしなくてはならないし、こちらもそんなに余裕があるわけではないので、6月末の仮契約終了後の待遇を検討しなくてはならない。

今朝は、一段と肌寒く（夏服しかないのだから当然、室内で16℃、気象情報だと最低気温は6～8℃位か？それでも日中は27℃位まで上がる）低い雲がたちこめていた。ドライバーによると、昨夜は多少降雨があったようだ。6月は少々シャワーがあるとか。

NSCでは、ラミネート・パーティクルボードでつくった棚のラミネートされていないヘリの部分にベニヤ・ストリップを接着剤ではった。こち

らでは、メーカーがかわっても、同じ「コンタクト」と書いてある。それと、別の本棚を少々手直しして、必要な収納はほぼ完成。ラミネートされていない面には、日本にもあるのりつきの壁紙をはったが、色を間違えたので明日買い直すかもしれない。その後、入れ替わり立ち代わり、いろいろな人が部屋を見物にきた。そのたびに、テニニシヤンの仕事はとてもよかったと伝えた。

昼にマンダ・ヒルのSC銀行でやっと小切手帳を入手。現金を少しおろして当面の生活費や公共料金の支払いに当てる。

ムルングシ村で借家の家賃を小切手で払ったが、初めて小切手を切ったので教えてもらいながら書いた。宛名は、ムルングシ.....で、金額はDollar * Thousand * Hundred Onlyと言葉で書いて、アラビア数字を添える。後はサインをして終わり。ちょっと緊張した。（緊張することが多い）

ムルングシの借家では、使用人のために屋外に水道をつけてくれていた。でも、夕方まだ待っても終了せず。明日続きをするようだ。台所の蛇口からの水量が減っているが、明日は直っているだろうか？

午後は、ドライバーと庭師とともに出発。自分はNSCに戻ったが、その前に電気料金を追加で納めて、携帯電話のプリペイド券を購入した。ドライバーと庭師には水道・電話の支払いを頼んだ。彼らはタウンに裏庭につくった畑の肥料と殺虫剤を買いに行った。殺虫剤はDoomとKarate。成分はよくみていないが、チェックしないといけない。カラテ以外に、こちらでは石鹸がGeisha、それとKamikazeという商標も見ることがある。

NSCで実験台に照明用の蛍光灯をつけていたら、J***事務所から緊急連絡。国家財務計画省に爆弾をしかけたという情報があったので、近づかないでくださいとのことだった。夜7時のニュースでは、全員無事に避難できましたと語る関係者が出ていた。（写真）去年は、マンダ・ヒルのショッピングセンターに爆弾を仕掛けたという情報だったが、何も起こらなかったそうだ。今回も何も無しだった。

朝はかなり寒いです

20040602



NSCで本棚に取り付けた蛍光灯用の遮光板の取り付け。掲示板の修理（壁に釘で打ちつけてあったのをはずして、ボードには白布を貼って、枠を作って出来上がり。）小物の収納用に箱 430 ミリ×300 ミリ×292 ミリの箱を4つ作るつもりで木材の裁断。回転ノコギリにもずいぶん慣れてきたが、きっちり希望の大きさを切るのは難しいので、まあまあでよしとした。それ以外に、長物をしまう箱を1つ。ちゃんと防塵メガネと襟と頭にタオルを巻いて、現地の作業着でノコを操作しています。

結局、お昼にムルングシに戻った以外は、作業し続けて、5つの箱が完成。今日も、荷物の整理ができなかった。でも、明日こそはできそう。当地について6日で2ヶ月になるので、それまでに仕事場だけでも整備したい。土曜日から作ったのは、まとめてみると電線用のケース。電気スイッチ用の箱1つと、電気と電話アウトレット用の箱1つ。実験台1台とそれに載せる本棚。それに別の本棚。あとは今日作った掲示板と箱5つ。

ところで、今日、作業をしていたら図書館司書が、話があるとのこと。

彼によると、自分のオフィスの横に小さな図書館があるが、それを広げて明るい別の場所に移動する予定なのだが、本棚や机の手配ができないので、援助してくれないかとのこと。新しい部屋を見せてもらったら、20畳位？のまあまあの部屋。雨季には雨漏りがあるのでその対策も必要らしい。周囲の学校の生徒も利用している図書館だから整備するのは重要だと思う。次の四半期の業務費で、合板を購入すれば本棚と机ぐらいは用意できるかもしれない。でも、本業（そんなものあるのかな？）から段々離れていくような気がする。

ブレーキ・パッド、ブレーキ・シュー交換しました
20040603



今朝は、地元の人々には寒かっただろうな。借家の中では15 ほどあったのだが、屋外は風もあり冷え込んでいた。もちろん氷がはるほどではないが、当地の人は帽子と防寒着、手袋をしている人もいる。

NSC（国立科学センター）に一昨日泥棒が入ったそうだ。門番に追いかけて、塀沿いに積んであった砂利を踏み台に塀を乗り越えて逃げた。敷地内に駐車してある自動車のタイヤを盗もうとしたらしい。前任者の任期中は、敷地内に駐車してあったミニバス（トヨタ・ハイエースが大部分）から窓ガラスを盗んで行ったとか。あるSVに話したら、ミニバスの運転手の中には、自宅前に自動車を停めて、窓をはずして屋内に持っていく人もいるそうだ。そういえば、タウンに自転車で行きながらいない使用人もいってと言っていた。やはり盗まれてしまうらしい。

乾季の現在、これから埃がひどくなるそうだから、本棚に埃が入らないように、ポリエチレンシートでカバーをつけたり、同じく窓をふさいだりした。9時前に調整員のDさんから携帯電話に電話があり、11時頃いらっしゃること。大急ぎで、ちらばっていたものをとりあえずどこかにしまった。その結果、一応、見た目には仕事ができる状態になった。それでも、まだ前任者の資料などをチェックしなくてはならない。

Dさんとはオフィスで1時間ほどお話。またDさんからDHLで荷物がついてきたことも聞いた。受け取りに14万クワチャかかるのはちょっと大きいけど、薬が入っているからしょうがないだろう。

ところで、運転手がブレーキ・パッドとブレーキ・シューを交換しなくてはならないと昨日言っていて、見積りをとらせた。昨日の見積りは約84万クワチャ。それならということで、7時45分頃NSCについた後、ドライバーに日産に行かせた。彼が帰ってきたのは、16時すぎ、パーツが無かったので別の店から取り寄せたりしながら修理は終了したものの100万の出費になった。でも、これで何年かはブレーキの心配はしなくてよさそうだ。

今年は寒いらしい

20040604

ドライバーは毛糸の帽子に厚いジャンパーを着て、手袋をしてやってきた。気象情報によると明日はルサカで最低気温が5 。今年は雨が多かったから6・7月が寒くなるとも聞く。夜のニュースではプライマリー・スクールの児童が制服だけで登校しているが、防寒のために規則をゆるめられないかという話題を放送していたほどだ。



NSCでは、資材の整理が続いた、結局午前も午後もそれにつぶれてしまった。昨日D氏から、「ここ寒くないですか？」と言われたので、放置されていた電気ストーブをきれいにした。こちらの電気ストーブは240Vなのでなかなか強力。でも、床に放置されていたため、床用の赤い塗装がこびりついていて、当地の建物は大概この赤い塗装がしてある。あるSVによるとアリなどの侵入を防ぐ塗装なのだそうだが、家具の足や、電線が染まってしまうと見苦しい。靴も側面が染まってしまう。こちらではマスキングして塗装する習慣がないことも問題だと思う。でも、前任者がその前のオフィサーかUNESCOの関係者が残っていたか分からない四塩化炭素がオフィスにあった。これをしみこませた紙で拭くと、みごとに落ちた。ただし、ピンには罫罫がしっかり書いてある。（この四塩化炭素は、もう固まりかけていた接着剤（コンタクト）を復活させるのにも重宝した。）

11時に一旦NSCを出て、DHLに関税？などを支払いに行った。タウン近くにDHL事務所があるが、4000円近くを支払って領収書をもらい、さらに聞くと空港へ行けばいいとのこと。借家でドライバーを休養させて、13時半ころにルサカ国際空港に行った。旅客の出入りする側にはDHLは無く、貨物取り扱い側へ移動。そうしたら、14時まで休みだから後で来いとのこと。車にガソリンを入れたりしながら時間をつぶして、14時に窓口へ行った。そこでの返答は、今日お金を払ったなら、ここでは渡せない、届けるから安心しろとの答え。午前中に空港へ行きな

さいと言われたのだが…。のんびり待つことにした。

ところで、こちらでは海藻を食べないので、ヨード不足になりやすい。生物の教科書には甲状腺肥大の患者さんの写真も載っている。だから食塩にヨードが添加してある。(食塩の袋にヨウ素添加って書いてあるでしょ)

今日は久しぶりに晴れあがった 北斗七星と南十字を同時に見た

20040605



朝、公共料金の領収書などを整理した。こちらは、請求額に支払額が満たないと電気や水道が止まるらしい。また、請求額ぴったりでなくて、多めに支払っておくこともできる。つまり銀行の口座のように、何クワチャ余計に支払っているというバランスを送ってくる。たとえば、マイナス25万なら、25万クワチャ余計に支払っているの、来月支払いが無くて、請求額がこの額を下回れば払わなくても大丈夫ということである。現在、水道と下水、電気、インターネット、電話、警備会社から毎月請求がくる。

9時からはJ***事務所で日本の子供達の勉強会。久しぶりに三角関数の初歩と一緒に勉強した。こちらに着たばかりの子女は英語の問題文を理解

するところからやっている。今週から来週にかけてはテストらしい。ただし電子辞書持ち込み可。

午後はNSCでベニア・ストリップの余計な部分を剥ぎ取る作業を木工用のパテで穴埋め作業をした。本棚のボードのヘリに貼ったストリップのはみ出しをカッターで削り、紙やすりをかけて、パテでしあげて終わり。いかにも素人作業だが気にしない。今日は、チョンゴ氏とテクニシャンも午前中から2時過ぎまで作業。写真のように木製の定規、ドロ잉・ボードなどにスプレー・ガンでヴァニッシュを吹き付けていた。

明日は、業務計画書の案をつくらなくてはならない。

ところで、夕食に他のSVの方々5名と中華料理店に出かけたとき、N氏に北斗七星が見えると言われた。夕方6時半頃に北側の地平線近くに地平線と平行に見事に見えた。南には南十字。北極星は見えないが、天の南極と天の北極をつなぐ線がイメージできた。料理店を9時頃に出たときには、北斗七星は鉛直近くになっていた。なるほど北極星方向は反時計周りに、天の南極方向は時計周りに星が回っている。何度見ても感動する。

三ヶ月目に入った

20040606

今はこちらの夜8時すぎ、当地では20 hoursと言っている。ラジオでは、亡くなった人々の情報を流している。どの病院で、いつ passed away、葬式はいつから、連絡先の電話は等々。道路を走っていて、トラックの荷台に溢れるほど人々が乗っていれば、それは graveyard (墓地) へいく車である。

ルサカについてから3ヶ月目に入った。SVとしての仕事は全くしていない。急がずに、とか焦らずにとか助言されても、そう思うわけにはいかない。NSC(国立科学センター)人達はみな親切にしてくれるので余計焦る)この頃は、外出しても周りの人々や町並みに慣れたようで、いちいちびっくりしなくなった。学習の一つである「慣れ」ともいう。こういう所なんだと理解するようになってきたからだと思う。

今月中に活動計画書、業務費の清算書などをつくる必要があるし、正式な自動車免許も取得しなければならない。今週中には、パニックボタンを設置している警備会社へも支払いに行かなくてはならない。(まだ一度も押していないが、何分で来るのだろうか? あるSVは、集金に来た職員の目の前でボタンを押して、警備会社につながっていないのを確認して、これまで無駄にお金を払っていたと怒っていたが。)

ところで、まず、月曜日からしなくてはならないのは、

1. 今後2ヶ月の活動計画。
2. オフィス前への掲示板の設置
3. NSC職員の写真撮影と自己紹介書類のお願い(その回収と印刷)
4. NSC職員に配布する印刷物(学級通信みたいなもの)の準備
5. 名刺の作成と印刷
6. 新図書室の本棚と机の準備
7. 吸塵器の点検(SVのA氏に助言を頼む)とそれら用の電線の購入。
8. 段ボールまたはボール紙を販売している店を探す。
9. 次の四半期の予算を作る。

などである。

1は、次のA~Fを検討している。

- A 当地の教育事情の視察と開発すべき理数科教材の絞込みのために学校を視察する。
- B 開発すべき理数科教材に関する意見をCDC(カリキュラム開発センター)から聞く。
- C NSC(国立科学センター)の職場環境・教育施設としての環境を整備する。

- ア．ワークショップの安全環境の改善（要するに資材・廃材置き場の整理・整頓）
- イ．衛生（トイレなどの衛生環境に対する助言）
- ウ．図書室の整備
- エ．センター内の掛図の更新
- オ．倉庫の整理・整頓
- D N S Cで製作できる木製教材の開発
- E 当地への生物実験・生物教材の紹介
- F 前任者と自分の理数科資料のW E B化

今日は、午前中に洗濯機の排水溝の掃除と買い物をしたら、体が重かったので、午後は休養した。体が水分を必要としているようで、１５時から１７時までにルイボスティを１．５リットルも飲んだ。でも、久しぶりに暖かい一日だった。昨日は、ザンビアとトーゴのサッカーの試合があったが、ザンビアが勝ったので当地の人々は気分持ちよい日曜をすごしただろう。

以下は、J***事務所の通信からの引用。著者のP氏は英国人で当地に１９６６年から住んでいる。

A village boy visits my house

Last week a boy from a remote village in the Easter Province visited my house and spent a night there. Three things, which he experienced, shocked him. Firstly, he refused to use the toilet claiming that it was water well from where to draw drinking water. He insisted on using the bush near by. Secondly he did not believe that there was no fire in the electric bulbs when lights were switched on at night. He even tried to switch off the light by blowing air on the bulb. Thirdly, he refused to sit on the chair, claiming there could be some magic that could bewitch him under the cautions. What a strange World the village boy lived in, away in the remove village.

小春日和でした

20060607



思い通りに予定が進行しないのでまだまだ焦るが、今日は無理せずに作業を進めた。朝も夜も極端に寒くなく、日中はポカポカしていて小春日和だった。水分を取るのを忘れないよう行動している。J***事務所で DHL の荷物を受け取った。

N S Cでは、やっと名刺をつくった。たった５０枚だけど必要だから時間がかかってよしとしよう。また、リソグラフのマスターとインクの価格もチェックすることができた。午後は、業務費の精算で時間がつぶれてしまった。でも、まあ、よしとしよう。

ところで、月曜日は学校が早く始まるが、N S C横のカブロンガ男子高校では遅刻した生徒に罰を与えていた。靴の片方をとりあげて、膝をまげさせてしゃがませ、小さくジャンプを繰り返して、プリーフェクト（権限を持った上級生）のところまで行かせていた。英国式だなと思った。

今日は、この他に警備会社の支払いを済ませた。

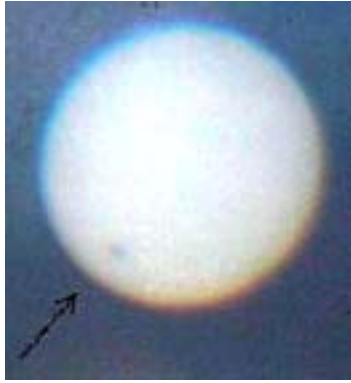
夕方、散歩していると家から出てきたJ***事務所・所長の夫人から電気がつかないとの訴え。お宅に伺ってブレーカーを点検しても異常無し。白熱電球の照明だけうっすらとついてたから、電圧が一部の家庭で下がっていたようだ。幸いこの借家は大丈夫だったが、所長宅の停電は復旧しただろうか？（夫人と娘さん２人では心細かっただろうな）

夜、環形動物が廊下に侵入。シマミズよりもはるかに細く、直径２．５ミリ位、長さは１０センチメートル程。結局ちり紙でつまんで逃がしてしまったが、体節がとても多かったのが印象に残った。

写真は使用人のためにやっとならした（前任者から数えると６ヶ月以上かかった）水道と、庭師・ドライバー。

金星の太陽面通過

20040608



朝、BBCのサイトと日本の新聞のサイトをチェックして、当地での金星の太陽面通過時刻を確認。日本時間から推測するとこちらでは、午前7時11分から午後1時19分のものであった。借家を出るときには既に始まっていた。いつものようにNSC（国立科学センター）まで運転手のオリバー氏が10キロの道を飛ばした。

NSCについて、すぐに前任者が購入した日本の小学生用太陽観察遮光盤と双眼鏡を出して空を見上げた。遮光版だけでは分かりにくかったが、双眼鏡の前に遮光版をつけて太陽を見ると、くっきりと金星の丸い影が見えた。お掃除の女性（ジョセフィン）に声をかけて、早速のぞいてもらった。そのうちにNSCのミニバスで通勤してきた他の職員にも次々に見てもらった。双眼鏡を生まれて初めて使う人もいたようだ。ほとんどの人が遮光版だけで、金星が分かったようだ。正午ごろまでかけて、所長やエグゼクティブ・オフィサーにも見てもらった。日向にいたので、少々日焼けしたかもしれない。日本では天気具合で見られたのだろうか？

三脚につけた双眼鏡の接眼レンズにデジタルカメラを近づけて写真を撮った。また、双眼鏡からの像を白い紙に投影しても写真を撮った。いずれにしても双眼鏡の性能が悪いので、しっかりした写真にならずに残念。

午後は業務費の清算をしているうちに終わってしまった。でも、天体ショーだったからよしとしよう。

ドライバーのオリバー（彼は今日電気代を納めに行ったが、昨日は電気が停められていたようだ）には、1997年からNSCに放置されている小さなドラフトチェンバーの整備を頼んだが、アクリル板保護用のプラスチックシートが古くなりすぎてはがれない。明日再挑戦である。



書類仕事で終わりました。

20040609

朝は冷え込んだものの、日中は汗ばむ位だった。

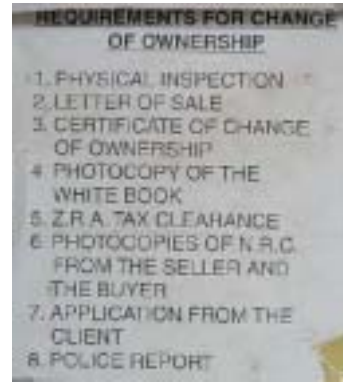
ドライバーはドラフト・チェンバーのプラスチックがブレーキ液ではがせると主張したので、彼に1ボトル買いに行かせた。結局、朝のうちに液をつけて夕方まで待ってもはがれない。一晩待ってみることにした。ブレーキ液は塗装につけると、塗装をはがしてしまうそうだから試してみる価値はあるだろう。

オフィスで、日本に送付する2ヶ月間の報告書をPCに向ってつくっていたら一日終わってしまった。書類仕事はたいていこういうものである。夕方、封筒を購入して明日送付することとした。

今日は、お腹が少しゆるくてつらかった。日本に居ても同じようだったから、余り心配しない。こういう日があってもいいことにしよう。

名義変更はできなかったけど、段ボールは買えました

20040610



朝、ガーデナーのムエンベが、母親がマラリアで重症なので、16時で早退させてほしいと言って来た。そんなことなら午後から帰りなさいと伝えた。彼は、その後今日殺虫剤をまくから野菜に触らないでとのこと。でも、続けてさらにマスクとゴム手袋を貸して欲しいと言ってきた。後でNSCから持ってくるから今日は薬を散布せずに、明日にしないで伝えた。

NSCでは、所員へのアンケートを作成し、日本語と英語で今後の活動のメモを作った。今日は風が強く、窓のすきまから砂埃が入ってくる。デスクを手のひらでこするとうっすらと赤茶けた砂がつく。机の上に置いたままの紙を膝の上に置いて作業していたら、紙についた砂でズボンの折り目が茶色になる。

メモがほぼできあがったときに、エグゼクティブ・オフィサのムカンダ氏が、運転手の都合が悪いので、教育省のヘッド・クォーターへチョンゴ氏とともにつれて行って欲しいとのこと。10分位待ってもらって、彼らとともに出かけた。教育省に二人を降ろして、1時間後にピックアップすると伝えた。その間にJ***事務所と、郵便局とムルングシに寄り二人を拾ってNSCへ戻った。

午後は、今日こそと思っていた自動車の名義変更。でも、結局できなかった。交通とコミュニケーション省の事務所にまず出向いたが、最初に中央警察で車両の検査を受けて来いとのこと。ただし、この窓口は英語ではないので、ドライバーにしか分からない。公用語は英語のはずじゃないのか！

中央警察にいくと

1. PHYSICAL INSPECTION
2. LETTER OF SALE
3. CERTIFICATE OF CHANGE OF OWNERSHIP
4. PHOTOCOPY OF THE WHITE BOOK
5. Z.R.A. TAX CLEARANCE
6. PHOTOCOPIES OF N.R.C FROM THE SELLER AND THE BUYER
7. APPLICATION FROM THE CLIENT
8. POLICE REPORT

が名義変更に必要なものと、でも車検証のように名義をあらわす4のWHITE BOOKはオリジナルがなければだめだとの事。こちらには、コピーしかない。これは、前任者に聞かしかいようだ。今晚、早速メールしなければ。それ以外にも新しく書類を作らなくてはならない。

ところで、中央警察の掲示板にあった名義変更に必要な書類のリストの内容はメモしたのだが、一応、デジタルカメラで写真を撮って記録したいので許可を求めた。オフィサーは、撮ってから現像して見るのかというので、すぐに撮影して、液晶画面を見せると大いに驚愕した。まだ、デジタルカメラの存在を知らなかったようだ。

少々、むしゃくしゃしたので、折角タウンに来たのだから、セイロン・オートという日本語の分かるオーナーがいる自動車修理・販売店へ向った。SVのA氏に教えてもらったこの店は、筑波大学で日本語を学んだスリランカ(セイロン)人の経営する店。一度、場所を途中で聞いて、やっと到着。オーナーと話がしたいというと、ちょっと待たされたけど彼のオフィスに入った。オフィスには日さく(井戸を掘る日本の企業、N I S S A K U)のK氏もいらっしやう。K氏はこちらで11年も仕事をしていらっしやう。こちらのオーナーには、名義変更の助言と教材のサンプルをつくるために段ボールを販売している店を紹介してもらった。その店もスリランカ人の経営のようだ。

ドライバーがオーナーから道筋を教えられたので、すぐに出発。途中、道を間違えてインダストリアル・エリアの端までいった。そこには、M O S I (こちらのビールのブランド、ビクトリア滝をつつむ水滴・霧という意味)の工場の向かいに石の販売店が並んでいた。店は、廃車になった自動車のフレームにプラスチック・シートをかけたもの。石は、店の周りから露天掘り。ドライバーによると、石を熱するとひびがはいるので、そのひびを手がかりに石を割り出して、それを細かく砕いて販売しているのだそう。見れば、延々とさえぎるものがない草原に、大きな穴がたくさんあいていた。

結局、段ボールはInternational Cartons and Packagingという会社で購入。最初にゲードを通り、ダンボールを扱っている工場サンプルを見て、そこでレターをもらった。そのレターを持って、別のオフィスへ行って、見積書

をもらい、次に支払いをして、最後に商品を得た。当地で販売されているかなりの商品のダンボールケース、商品の紙のパッケージを大量生産していた。やっと工場らしい所に来た印象だった。日本の小規模な印刷所と同じ匂いがした。

これらも国際貢献？

20040611

庭師のムエンベは母親のお見舞いができたようだが、まだ彼女の調子が良くないそうだ。おいおい回復するだろうとのことだった。

N S Cではオリバーに頼んで、昨日買ったダンボールのうち15枚をポリエチレン・シートで包むことと、ドラフト・チェンバーのプラスチック・シートを最後まではがすことを頼んだ。その間にP Cを起動して、今後の活動計画のメモを完成させた。エグゼクティブ・オフィサのムカンダ氏が訪ねて来たので、英文のチェックを頼んだ。少々手直しがあったが、活動計画のメモは一段落。

そうこうしていたら、あるテクニシャンが、一昨日貸した電動ドリル・ドライバーを返しに来た。しかし、何か相談があるようす。彼によると、弟が仕事場まで来て、ペアレントに何かトラブルがあるとのこと。トランスポートを頼めないかということだった。ルサカ市の地図で見ると、それほど遠方でもないの、オリバーに指示して、送ってもらった。

彼がN S Cに戻って来て言うことには、ご両親のトラブルではなく、彼の妹の事だった。以前から夫に殴られていて、今日も酷い状態なので警察に訴えとのこと。ドメスティック・ヴァイオレンスか？と聞くと、そうだとのこと。夫は他にも女性が3人居るとか…。ちょっと深刻であった。

次に来たのは、お掃除担当の女性。彼女のお母さんがこれからウエスト・プロヴィンスまでバスで行くのだが、荷物が重いのでタウンのバス・ターミナルまでトランスポートを助けて欲しいとのこと。ドライバーに後で聞いた所では、バスで800キロも移動するのだそうだ。荷物の他に、バスで寝るマットレスも持参するそうだ。結局これもOKした。

自分の仕事はというと、メモを所長の秘書とJ***事務所に届けた後は、前任者の残した小物を入れた箱と自分が持参した資材に貼るシール作り。オリバーはドラフトのプラスチックを見事にはがしたが、アクリル板は傷だらけ、アクリル板を塗装してしまおうか悩んでいる。

結局、午後いっぱいかけて、シール作りと貼り付けが終わり、後は書類の整理が残った。来週のんびりやろう。いや、それとも土日やるべきか？

借家に戻るとオリバーが水道のバランスが無くなって(水道料金の残高が無くなって)水道の供給が止められたとの事。既に準備してあった、彼の来月の給料から必要なだけ抜き取るように給料の入った封筒を渡した。結局持って行ったのは、5万クワチャ(約1250円)だった。

明日・明後日は、愛知万博に出展するこちらの踊りや歌のオーディションがあるそうだ。日曜日に見に行けたらと思う。

土曜日

20040612



4時頃に眼が覚めて、ベッドでゴロゴロしていたが、結局5時から活動開始。まず、一週間分のお米を炊いて冷凍した。

9時から11時までは、J***事務所で子供達の勉強会。今日は、中学生に五界説、藻類、陸上植物の大まかな分類などを説明した。

買い物をしてムルングシの借家に戻り、軽く昼食をとってからカブロンガのメリッサ(スーパー・マーケットの名前)へ出かけて、少し買い物。ウォッカを買ったが、これは飲むだけでなく、お茶を入れるペットボトルの消毒にも使う。ペットボトルは熱湯をかけると変形してしまうので、この頃は再利用するためにウォッカで消毒している。

借家に戻ってから使っていなかった大型テレビを見やすい場所に移動したり、小型のテレビを寝室に運んだり、バスルームのひび割れや

タイル目地の穴埋めの修理をした。

早めにシャワーと洗濯を済ませて、夕方の散歩。今日はいつときだが日本人ばかり6名でつれだって歩いていた。

夜は、中国料理店。注文をしてから料理が出てくるまでに約1時間待ったが、その間にいろいろ情報交換。一時帰国されて先日当地に戻られたK氏は、帰朝時にセブ島に立ち寄ったそうだ。20年ほど前にセブ島で椰子殻活性炭を作っていたら、その工場を再び訪れたとか、ISOを取得したきれいな工場になっていたそうだ。ココヤシはジュースとココナッツミルクをとると外側が残るが、これをただ燃料にするだけでなく、活性炭にすると付加価値がついて商品になるそうだ。

それに似た、事業としてザンビアで木炭や石炭の粉から豆炭をつくる試みがあったそうだが、粉を固めるためのタ

ールなどが入手できなくてうまくいかなかったとか、とお聞きした。各S Vの専門分野のお話を聞くのは参考になる。

日曜日

20040613

朝、シーツの洗濯。裏庭の畑からネギをとってきて、これまた畑から収穫して冷蔵しておいたニンジンを使って、雑炊にした。9時前にマンダ・ヒルに向い。ゆっくりとスーパー・マーケットであるショップライトの商品棚を一周した。白人の多くは、一週間分の買い物をカートに入れて行くが、こちらは買い物籠一つだけ、前から欲しかった台所用品(包丁とハサミ)を買ったり、電灯の代わりにつけられる蛍光灯を買ったりした。

その後、同じ敷地にあるホーム・センターのgameで同じように商品をチェック。こうしてチェックするのは、どこでどんな商品が手に入るが頭に入れて置く為。たとえば、

関数電卓 SHARP EL531VH K102,000 (何年製かわからない)

双眼鏡 BUSHNELL K450,000 ニコン製 型不明 K490,000

プリンタ HP PSC1110M K840,000(コピー・スキャナ・プリンタ) HP Deskjet3550 K580,000

ゲームボーイ・アドバンス K1,580,000 (約4万円!)

デスクトップPC HP C2.4 COMBO 本体 K4,970,000 15インチCRTモニタ K840,000

中国製タイマー(単三1本で動く多機能) K130,000

グルー・ガン K142,000

これら以外に投げ込みヒーターの価格も調べたかったがgameでは見つからなかった。タウンでは見た事があるので月曜からの週に調べよう。

車(1991年製 ダットサン?(日産)・サニー)は直線でステアリングを放すと、左に少しずつづれて行く、左前輪の空気圧が低いかもしれない。明日、ドライバーにチェックさせよう。

続けて、食料品を買いにアーケード(ムルングシに一番近いショッピング・センタ)に行ったら、クラシック・カーの展示会を駐車場で行っていた。といっても10数台程度。ロールス・ロイスやぼろぼろのランド・ローバーに混じって日本車も発見。なんと、ホンダS800でした!エンジンには、Japanの刻印がしっかりありました。

午後は、メイドさんに手当てを渡すときに入れる袋をエクセルワードで作ろうとPCに向った。結局、ワードでお年玉袋サイズの袋の台紙をつくったのだが、プリンタがどうも鮮明に印刷できない。インクの容器を買えたり、詰め替えセットをつかったり、プリンタヘッドの掃除を繰り返していたら、プリンタが動かなくなった!明日、タウンでHPのプリンタを探して買おう。仕事の必需品なのでこの出費はしょうがない。そのため、愛知万博のオーディションにはいかなかった。

でも、次週の活動予定や活動計画案の更新ができたのでよしとしよう。

明日は、マンダ・ヒルでお金を引き出したら、郵便局(4月に発送した薬がついたとの連絡があった)、タウン(プリンタ購入)、NSCと動き回らねばならない。

TVはサッカーのEURO TOURNAMENT、スイスとクロアチア戦をしばらく見た。

A BUSY BUSY DAY

20040614



今朝、6時半頃に呼び鈴が鳴った。運転手のオリバーが毛糸の帽子をかぶり、防寒具で身を包んで玄関前に立っている。これだけ早く来るのは何かあった証。彼によると金曜日に、あるyardのそばを歩いていたら、大きな犬に背中を噛まれたとか。雌犬で子犬をつれていたそうだ。

病院に支払いに行くため、K550,000必要で、自分でK150,000持っているから、お金をくださいということだった。朝お金を払ったら、まだ背中が痛いから休むとのこと。用意してあった彼の来月分の給料から必要なお金を持たせて返した。

NSCでは、オリバーのけがのことと、プリンタが壊れた話をした。タウンの郵便局まで行く事も考えて、司書と一緒に連れてくれないかと話をしたらOK。しかし、その後、所長にマンダ・ヒルのgameとcomputer express(タウンにある)のどちらが良いか聞いたところ、彼はマンダ・ヒルならば保証がつくと言ったので、マンダ・ヒルまで一人で行く事にした。(夕方の散歩でN氏からそうでもないとの助言を得た)9時少しすぎにマンダ・ヒルに着いた

が、S C 銀行は9時半から。そこで、昨日チェックしたプリンタの価格を再び game で確認した。当地のスーパーやホーム・センター、本屋などは、入り口で手荷物を預けることになっている。Parcel と書いてあるカウンターに鞆を預けて入り、中で再確認したら、金額は昨日と同じで在庫もありそうだった。

9 時 1 5 分から 1 5 分ほど銀行の入り口前に並んで最初のお客としてカウンターへ。預金の引き出しです (Withdrawal please! というだけ) と言って書類を書く。パスポートと書類を出して、さらに書類の裏にもサインしてお金を受け取った。そうして、無事にHPのPSC 1110とフォト用紙、CDRを購入した。

NSCに戻って、プリンタのインストールをするが、何回も失敗。*****.dll を複写せよとPCが要求するが、検索してもそのファイルが無い。でも、インストール用CDのフォルダを一つずつチェックしたら、ありました。無事にインストールが完了したのは、16時近くだった。でもこのプリンタはコピー機にもスキャナにもなるので助かる。

プリンタと格闘している間にしたのは、SVのA氏にNSCに来てもらって、切りくずの吸塵器を点検してもらうこと。14時少し前にA氏が到着され、2台の吸塵器を見てもらった。いろいろ見ているうちに、モーターは三相で、ケーブルも問題無いようだから、とにかく繋いで動くか試す事になった。配電盤を開けて、ブレーカーを切り、ケーブルの端を配電盤に留めて作動を確認。2台とも無事動く。ただし、試運転のときはすごい埃だった。後は、適切なケーブルと吸塵器につける直径12センチのホースを買うだけ。

A氏にオリバーの話をしたら、ご自分も当地で犬にかまれて、その後、たいへんだったそうなので、J***事務所で相談すべきだとの助言だった。A氏は、自分が病院に行った時に、ルサカでの病気は、マラリア、呼吸器疾患、下痢、結核の順で多いと知ったとか。だから吸塵器を使うのは大切だと強調されていた。A氏が帰った後、サイエンス・パーク (どこにできるんだ?) に備える鉄管の楽器を見せてもらったり、NSCの所長と簡単な打ち合わせをしたりした後、早速J***事務所に向った。

健康管理担当のW氏のお話だと、当地の一般的な病院には狂犬病のワクチンはないが、NSCの近くの薬局などで購入できるそうだ。それでも、一度動物に噛まれたときに必要なワクチンは1セット K250, 000ほどだから、オリバーの払う額はちょっと高いようだ。また、ワクチンを持参すれば地元の病院で安く (K3000位) 注射してくれるとか。ただし、ワクチンは自分で冷蔵しておかねばならない。

いずれにせよ。彼を噛んだ犬が、野犬なのか、飼い主がいるのかなどを確かめなければならない。

ムルングシに戻って散歩の後、家に入ろうとしたが、3つある玄関のカギのうち、最後のカギが壊れてしまって開かない。シリンダーの外側にある金属板にひびがあったのだが、内部まで不具合が進んでいたようだ。結局、20分ほど格闘して諦めて、ムルングシのゲートの職員に事情を話して来てもらった。彼は、小型のアーミーナイフのような道具で壊れた金属片を取り除き、3分ほどで開けてくれた。こちらは、発光ダイオードの小型ランプ (いつも財布につけている) で鍵穴を照らして応援しただけ。感謝! 感謝! ちょっと心づけを渡した。

しかし、これだけではなかった。夜、電話が不通、発信音もしない。でも、受話器には電気が着ている、モデム・セイバーのチェック・ランプはOKが点く。A氏に携帯電話で聞いてみると、まったく音がでないなら物理的に電話が切れているだろうとのこと。でも、料金不足で切られたのかもしれない。Zamtel にも明日は行かなくてはならない。

使用人の家を初めて見ました

20040615

今朝も電話が通じない。昨日壊れた錠前を玄関ドアからはずした。運転手のオリバーは今日も休み。自分で運転してカブロングのNSCへ、ゲートを入ると。カローラ (30型かな) を人力で押している人がいる。お手伝いしましょうと言うと、押してくれとのこと。ゲートのガード一緒に押すと二回目にエンジンがかかった。めでたしめでたし。

6月中に今後21ヶ月の予定をつくりたいのだが、何回もメモを書き直す。所長、エグゼクティブ・オッフサ、木工担当のオフィサに案を見もらうために印刷して渡した。また、HPプリンタで新しく名刺を印刷した。ただし、これは上手に切るのが面倒、55mm×91mmにうまく切りたいものだ。

オフィスで作業していたら、所長から今日訪れていたNSCの直接のディレクターに当たる役人を紹介してもらった。

午後、ムグングシ村に戻ったら電話が通じている。ラッキー! またムルングシ村の事務所に、壊れた鍵を持参してメンテナンス・マネジャーに交換を依頼して来た。その後、A氏と共に、NSCの吸塵器用の電線を購入にタウンへ向った。タウンは14時まで昼休みで、ほとんどの店はシャッターを降ろしてしまう。City TV Centre という店の店員用駐車場にA氏は車を停めた。まだ店が開かないので駐車場で待った。店員がTOYOTAのピックアップの荷台上で談笑していたが、A氏が話しかけると、彼らは昼食代が無いのでお昼は抜きだとのこと。A氏の勤務する職業訓練校 (J***がバス会社の建物を買い取って設立した学校) でも、ほとんどの学生が昼食を食べずにお金を学費にまわしているそうだ。食堂で食べているのは外部の人達ばかりだとか。店が開くと、店員にうながされて、店の奥から中に入れてもらった。

100m2万円ほどの4本の電線が通ったケーブルを20メートル購入。A氏は電線の材質にも詳しく、壁にとりつけて使う電線と床を引きずって使う電線を見分けて助言してくれた。

その後、日本からの郵便をチェックしにタウンの郵便局に行ったがJ***事務所にあるらしいことが判明。郵便局を

後にして A 氏が探していた純銅製のアース棒を探しているいろいろな店を回った。最初の店で、あそこに行け、次の店でここに行けとアドバイスを受け、何件か回ってやっと発見。A 氏は、この銅の棒を切って、ドリルで穴を開けて、電線のターミナルの雌ネジにするそうだ。プラスチックのものもあるのだが、長持ちさせる為だとの事だった。タウンの露天にもアース棒はあるそうだが、A 氏がチェックしたところでは、どうやらメッキしたものらしい。また、日本でならほとんど音のしない自動機械で A 氏の希望通り銅線を切れるとのこと。それが無い国だからわれわれボランティアが技術移転に来ているのだな。

A 氏に感謝して、ムルングシの借家に戻り、ドライバーの家までガーディナー（庭師）とお見舞いに行く事にした。斜向かいの U 氏のドライバーがオリバーの家を知っているとの事。彼と少し話して、彼の運転する車の後についてオリバーの家まで行った。ブロックをつんで、モルタルを塗った簡単な平屋の一角が彼の家だったが、残念ながら不在。もし、明日も休むようなら明日もう一度来てみよう。

次に、ガーディナーを乗せたまま J***事務所へ行き、郵便物を受け取った。その後、ガーディナーを自宅まで送った。まず、ムルングシ村の近くまで戻り、しばらく舗装路を走った後、未舗装の道をゆっくりと走って、彼の家についた。平屋で清潔な印象。義理の母と妻、先日他界した兄の子供一人、彼の子供 4 人、親戚？の青年 1 人とガーディナー本人（28 歳）の 9 人で住んでいる。白黒 TV もあり、子供達はシマを食べていた。ガーディナーによると、借家で毎月の家賃が K 100,000（約 2500 円）だそうだ。ちょっと小奇麗な平屋を買うと K 1 千万とのこと。もう少し、質素な家はその半分位だそうだ。彼は、将来は持ち家に住みたいと言っていた。

ところで、電話は昼から復旧していました。

デジタル・カメラの日 20040616



朝、ドライバーは来ない。庭師のムエンベに、彼が遅れてきたら一緒に仕事をして待っているように伝えて欲しいとお願いして、一人で出かけることにした。それと、14時に玄関ドアの鍵交換にムルングシのワーカーが来る予定だから自分が戻ってくると言った。

NSCでは、まず名刺を作り、その後、前任者に比べるとかなり遅いが、NSCのスタッフに自己紹介のアンケートをお願いして写真をとってまわった。今日だけで全員がとれたわけではないが、23名の写真が撮れた。でも、所長は撮り忘れた。

図書館で新聞を読んでいた男性にもアンケートと写真をお願いした。彼はNSCのスタッフではないが、すぐ近くにある障害のある生徒の寮で、寮生の身辺をしている。彼は、快くアンケートに答えてくれたのだが、写真を撮ろうとすると顔がひきつる。何回も取り直した。写真を撮られるのが初めてなのだろうか？明日の午後、取りに来てくれれば印刷して渡すよと伝えた。

また、テクニシャンは昨日購入した電線をうまく機械に接続するソケットに繋いでくれた。後は、アウトレット側につなぐのと、吸塵用のホースを用意しなければならない。ホースは自作するしかないようだ。

所長が、デジタル・カメラを貸してくれと言ってきた。彼がとって来たのは、プラスチックの成型器でつくるプロ

ックでくみ上げた物のサンプル。カメラの映像ファイルはC D - Rに焼いて所長に渡した。

今日は初めてN S Cの食堂で食事をした(やっと)。今まで、ほとんど昼はムルングシへ戻っていたが、なかなか清潔な食堂でレイチェルさんのつくる食事は、質素だが口に会った。主食はシマカ米。自分では食べるつもりがなかったのに、用意してくれたので、ありがたくいただいた。明日、ジェニファーに一月分まとめて支払いをしなくてはならない。

午後、ムルングシ村の借家に戻ると、まもなくワーカーが鍵の交換に来てくれた。30分ほどで完了。ちょっとだけ心づけを渡した。

15時から、庭師と一緒にドライバーの家へ再び向った。不在、近所の人に聞くとクリニックに行っていたようだ。明日、仕事にこないなら16時にまた来るとメモを残して帰った。

明日は、免許(一ヶ月だけのテンポラリーなもの)を公式な免許に更新する期限だ。ドライバーがこななければ、一人でタウンへ行かなくてはならない。

免許証入手しました
20040617



今朝、出かけようと準備していたら台所の蛍光灯が一本点滅していた。食卓の上に椅子をのせて蛍光灯をはずした、借家番号(Villa 32A)を書き足した名刺を添えて蛍光灯をムルングシ村の事務室に届けて来た。

今日も、ドライバーは来ないので出かけるのはひとり。N S Cでは、昨日撮ったスタッフの写真をH Pのプリンタで印刷。昨晚、白黒で印刷したものと一緒にスタッフに渡す準備をした。作業台の上に写真を並べて置くと次々にスタッフがやって来ては、いろいろおしゃべりして写真を持って言った。屋外で撮った写真が綺麗に見えたのか、もう一度、外で撮ってくれというスタッフの要求に応えたりして朝は終わった。

多くのスタッフが喜んでくれたようだ。肌の黒さは人によって違うのだが、あるS Vによると、白く写れば、写るほど喜ばれるようだ。そこで、E Vを+2にして、明るいところでもストロボを焚くように調整するとかなり肌の色が薄くなる。それでも黒いときは、P Cのフォト・エディタで加工して印刷するようにした。

エグゼクティブ・オフィサがオフィスに着たので、ドライバーがまだ臥せっているから、免許更新の為にロウド・トランスポートのデパートメントまで、誰か一緒に行ってくれないかとお願いした。そうしたら、まず、自分も外で写真を撮って欲しい。それと一番下の子供の写真を拡大して欲しいとの話。快く引き受けた。免許更新にはトーマス氏が一緒に行ってくれることになった。

昨日、昼食代(一ヶ月K 2 0 0 0 0)を確認したので、5ヶ月分をまとめてジョセフィンに渡した。後で、アンケートを届けてくれたカンティーン・アテンダント(食事を作ってくれる人)のレイチェルによると、メニューに希望があるなら言って欲しいとのことだった。少し、考えてみよう。

10時頃にトーマス氏を助手席に乗せてタウンへ向った。彼の右、左、こっちの車線、あっちの車線、そこでUターンの指示に従って、カブロンガ通りから、ロス・アンジェルス通り、ロング・エーカー、チャーチ・ロウド、カイロ・ロウド、ルムンバ・ロウドと進んで目的地に到着。いつものおばさんが現地語で受付している窓口で次にどこへ行けばよいか聞く。その後、トーマス氏が別の窓口で聞くと、5番から11番?のどこでも良いから行ってみるとのこと。6番の窓口で一ヶ月のテンポラリー免許を出すと、免許のバーコードをスキャンして、免許が出来ているから受け取り窓口へ行くようにとのこと。建物から出て、屋外の小さな小屋にテンポラリー免許を出し、名前が呼ばれるのを20分ほど待った。証明書などいらずに無事に免許取得。一安心だった。

N S Cに戻って、各スタッフが提出してくれたアンケート用紙に印刷した顔写真を貼って一段落。トーマス氏に手伝ってもらってハンド・ライティングの読めないところを教えてもらった。彼らと話しているうちに、N S Cの職員は将来年金がもらえる雇用形態と、年金は無いが10年毎に多額のボーナスが得られる Classified Daily Employee (C.D.E)の2種類があることがわかった。平均寿命32歳の国でも年金制度があるのか。でも、彼らが年金を貰う年代になったとき、この国の経済は大丈夫なのだろうか。そう言えば、食堂でP E O (Principal Education Officer ようするに所長)が定年は55歳だと言っていたな。

15時過ぎにムルングシ村の借家へ向った。今日もムエンベとオリバーの家を訪ねる為。ムエンベによると、一度エレクトリシャンが蛍光灯の取り付けに来てくれたそうだが、自分が不在なので帰ったそうだ。とにかく、ムエンベ

に出かけるから準備をしてくれと伝えて一度家に入った。

オリバーの家には、次の書き置きがあった。

17-06-04

To Mr. *****

I am writing on my brother Oliver who is not around.
He went to see someone in Olympia township yesterday
and did not return.

Concerning his health; by the time he left, he was
feeling much better and I hope he is fine. Oliver told me
that he is going to meet you on Friday 18th June 2004.

ということで、今日も不在だったが、明日は会えそうなので引き上げた。

夕方、少し早めに散歩をしていたら、梯子と蛍光灯を持ったエレクトリシャンが、借家の番号で呼びかけてきた。
そうだよ、と答えてそのまま借家へ。無事、蛍光灯交換終了。ちょっと心づけを渡した。

午前中は風が強く肌寒い金曜日だった

20040618



朝、ひとりで車を運転してNSCについた。昨日の書き置きはなんだったんだろう。

オフィスに着くと、いつものように、デスクや棚を雑巾がけした。しかし、今日は風が強く、拭いても、拭いても細かい砂が積もっていく、ラップトップの画面をレンズペーパーで拭くと画面の隅に砂が貼り付いて拭いきれない。屋外に出ると、アボガドの花が風で飛ばされて路上に緑の粉のように広がっていた。

午前中は90年代に作成された low cost の理科教材資料などを整理した。その間に、テクニシャンが、黄色と緑のペンキを貸してほしいと来たので快く渡す。鉄管でつくった楽器に塗装するためだ。あとで、所長が来てということには、7月29日から8月2日まで開かれるアグリカルチャル・ショーにこの楽器も展示するそうだ。毎日二人ずつ交代で、NSCの展示場の当番があるので、自分にも頼みたいと言っていた。

それ以外に、日本の文化を紹介する簡単な通信をつくって所員に配った。定期的につくれるといいのだが。後は、来週の予定をつくって、秘書の Ruth さんに渡した。最後に残っていた Jolly 氏の写真を撮って、アンケートを渡した。これで全員の写真撮影終了。

月曜日に買ったプリンタのカラーインクがもうなくなった。所員全員の写真を印刷したり、大きなカラーコピーをとったからしかたがないが、どうしても必要なのでマンガ・ヒルで購入。いつものようにHPのカートリッジはとて高価だった。

夜、夕食を食べていたら停電。ろうそくを立てて食事を続けようと思ったら復旧した。以前、レストランで2回停電を経験したが、いずれも一度復旧してその後、もう一度停電した。どうやら今日は一度の停電ですんだようだ。しかし、水道を使っても、タンクに水を溜めるポンプの音がしない、断水のような。

肌寒い土曜日

20040619

朝、9時にJ***事務所につくようにゆっくり準備をしていたら、マイクロウェイブの時計の時間とラジオの時報が30分もずれていた。後で分かったことだが、深夜に2度ほど停電があったので、時計がリセットされてしまったようだ。

事務所では、中学生に恒星・惑星・衛星・彗星・太陽系・銀河の概要を説明した。高校生から就学前の幼児まで事務所の一階に集まるとなかなかにぎやかでよい。

簡単に買い物をして借家に戻り、ムエンベ氏を待った。14時すぎに彼が来たので、もう一度オリバーの自宅へ行く。またしても不在。彼のフィアンセが友達といたので、月曜日に会いましょうと伝言を頼んだ。一方、ムエンベは1歳8ヶ月の一番下の息子が昨晚から高熱と下痢で弱っているとのことで心配そうだった。彼の妻がクリニックにつれていったのだが、自分の携帯電話で連絡しようとしても busy で繋がらなかった。結局、ムエンベの家へ行き様子

を見た。母親におぶされていた末の子はぐったりしているけど生気はあるので大丈夫だろう。彼の家に入り、子供の写真を撮らせてもらおうとしたら、電池切れ。予備を持ち歩かないといけない。

その後は、NSCで配布するプリント作り、中華料理店で会食で土曜日が終わった。

ルサカ ミュージック フェスティバル

20040620



日曜の朝はシーツの洗濯。朝食の後、身支度をして8時過ぎにタウンまで車で行ってみた。グレイト・イースト、フリーダム、カイロ、チャーチ、ハイレ・セラシエ、ロス・アンジェルス、カブロンガ、ビショップと思い通りに走れた。タウンの中心であるフリーダム、カイロの両通りの店はほとんど閉店。当地の日曜日は一部の店を除いて休みである。途中でガソリンを入れると先週より1リットル当たりK230高いK4310に成っていた。タイヤの空気圧を見てくれと頼んだら、両手の指でタイヤを外側からグイグイ押して、問題ない！との返答だった。

日用品などの買い物をマンダ・ヒルとアーケードで済ませて、一旦借家へ戻り、その後NSCへ向った。到着前にNSC近くのスーパー・マーケットであるメリッサで作りたてのパンを3斤買った。もちもちしていておいしいからだ。2つは休日でもNSCの門番をしているガードへのプレゼント用、一つは自分用のつもりであった。でも、NSCに行ったらガード2名と運転手・テクニシャンが仕事をしていたので、全部渡してしまった。自分の分は残らなかった。

簡単に用事を済ませて、借家へ戻った。午後はSVのY氏に誘われて、U氏、UG氏とともにY氏の車で市内のカブワタ地区で開かれるルサカ・ミュージック・フェスティバルを見学した。会場は、カルチャー・ヴィレッジ、ここでは、いつでもお土産品などが買えるようだ。フェスティバルは、ムシロのようなもので囲まれた円形の会場が開かれていた。会場の中央には一段高くなった四角い土のステージがあり、踊りがそのステージで披露された。

色鮮やかな衣装とタイコの音で、なかなか引きつけられる出し物が多かったと思う。この催しはフランス大使館の後援で行われているらしく、フランス大使が挨拶していた。また、ザンビア初代大統領のカウンダ氏も来場し、彼の入場後には国家の斉唱もあった。彼は、ザンビアでは絶大な人気があるようだ。毎日TVのHIV/AIDSキャンペーンで見る顔と同じだった。80歳を超えるが豊饒（かくしゃく）としている。

出し物が来客に受けると、御捻り（むき出しのお礼）を持った観客がステージに上がり、踊り手に渡したり、観客もステージに上がって一緒に踊ったりしていた。もっぱら腰を中心に体を振ったり、足や手を素早く動かす踊りだった。自分にとっては、初めての機会だったので、なかなか面白かった。

冬至？夏至？

20040621

そろそろ日本では夏至のはず、こちらは冬至に当たるがカボチャは買わなかった。一日中肌寒く、日中はオフィスで電気ストーブを焚いていた。テレビの予報によると、明日も最低気温は6 ほどだそうだ。

朝、ドライバーは元気で現れた。狂犬病の注射をしていなかった犬に噛まれたので、二回注射を打ったそうだ。高価だが個人病院に行ったとか、ガバメントの病院は施設が整っていないのでたくさん人が死ぬと強調していた。犬は、囲われてなかったので、警察に話して殺してしまうとか。うーん。

NSCでは、鍵の架からなかったオフィスのキャビネットに鉄工用のドリルであなを開けて南京錠用の掛け金をつけたり、オリバーに指示してドラフト・チェンバーのカバーの改修を進めたり、日本文化紹介のプリントを作ったりした。プリントでは日本語の挨拶を紹介したが、配布した人々はなかなか興味を持って読んでくれたようだ。

日本人はrとlの区別が苦手だとか、thの音が無いとか説明したら、こちらでも地域によってhを落として発音するとかいろいろ教えてくれた。自分の名前前の語尾をnoからnaに変えたら、ニャンジャ語（ルサカ近郊の現地語）ではI refuse! という意味になるそうだ。

次に配るプリントの英語をエグゼクティブ・オフィサにチェックして貰おうと思ったら、彼は姪が他界したのでこれから帰るとのこと。うーん。

昼食。ご飯をつくってくれるCANTEEN ATTENDANTのレイチェルは、先週末に熱があったので心配していたら、今日は症状が悪化したらしく休みだった。そのため、昼食はクリーナーのジョセフィンと図書館のフェリスタスが作っていた。レイチェルの病状が心配だ。

一食K3,000、一ヶ月ならK20,000の昼食を職員とおしゃべりしながら食べてから、オフィスで午後の作業の準備していたらNSCのスタッフではないが小綺麗な服装の男性がうろうろしていた。彼は近くのベシック・スクールのサイエンス担当教員で、プリントを100枚つくりたいのだが、リソグラフィがここにあると聞いたので、印刷費用を聞きに来たようだ。中国製のリソグラフ（スキャナなどは日本製）があるのを見せて、インクボトルとマスターはこれこれの値段だが、紙さえ持参してくれば無料で印刷すると伝えた。

そうこうしていたら、庭師のムエンベから携帯電話がかかった。先週から発熱と下痢の続いている末の息子（1歳8ヶ月）の具合がとても悪いので、明日休ませて欲しいとのこと。病院に行くお金があるのかと聞くと、無い！との答え。では、これからそちらに行くから、待っているように伝えて、慌しく後片付け。オリバーと庭師の家へ向った。

高価だけど、今日のうちに個人病院に行くか、それとも明日いつも行っている当地のクリニックに出向くか相談したところ、明日クリニックに行ったら処方箋を貰い、薬を買いに行くとのこと。でも、持参した体温計で測ると39.4の体温！自分ならフラフラで起きている気がしない体温だった。昨日から液体しか口にせず、シマを食べないとのこと。明日、クリニックに行くのならせめて果物ぐらい与えようと、ムエンベ夫妻をつれて、アーケードのスーパーで買い物をした。夫人は、スイカ、オレンジ、レモン、卵、パン、砂糖を買った。（もちろん、お金はこちら持ち）さらにムルングシの借家から前任者かその前の住人の方が残した1リットル用のボカリスエットの粉末を庭師に持たせた。さらに日本から持参したピオフェルミンの止瀉薬、それに彼の二番目の子供が白癬（しらくも）だったので水虫用軟膏を渡した。

庭師宅の隣の子供が紐をつけた小型のコンロをぐるぐる振り回して火を起こしていた。

明日は、彼らの症状が良くなっていますように。

肌寒い一日

20040622



庭師の末の子供は、昨晚体が熱かったものの、今朝は平熱になっていたそうだ、一安心。今日の午前中に祖母と母親でクリニックにつれていくとか。

今日の明け方はそれほど寒くなかったが、一日中雲が垂れ込めて肌寒かった。所長の秘書のMs.Ruthは食堂で、寒い・寒いを連発していた。

今日の午前中はNSCのスタッフに配る日本紹介のプリントづくりでつぶれてしまった。Ms.Ruthに英語を見てもらってからリソグラフで印刷した。昨日Ms.Ruthに日本人にはRとLの区別が難しいとか、THとSの音が区別できない人がいるとか、BとVを区別していないとか、DがDOになるとか説明したら妙に納得していた。

レイチェルは復帰。でも、まだ完全ではないようだ。今日は昼食で白米とシマをもらった。でも、ちょっと量が多すぎた。ご飯は残してしまった。シマはお餅になりきっていないお餅の様な食感だがけっして悪くない。当地の人々はおかずとシマを手で

こねながら食べる。日本人の食べ方を口中調味というなら、彼らは手中調味だろうか。

NSCの図書館は外来者にも開放されている。ゲイトでカブロンガ女子高校の生徒とばったり出会ったら、向こうはとてもびっくりしていた。日本で、アフリカンに突然出会ったらびっくりするのと同じだなとこれも妙に納得した。

午後は、延長コードの修理とドラフト・チェンバーの修理で終わってしまった。ドライバーに指示して直させたのを午後になって自分でやり直したり、オフィスのデスク上に置いた電灯が点いたり・消えたりするので電線をチェックしたりした。これは延長コードのプラグを受け留める金具がゆるんでいたことが問題だった。

その後、ドラフトの作動も確認できたので、今日の作業は終わりとした。

S V 研修会

20040623





庭師ムエンベの末の子供は、今朝には平熱になったようだ。昨日はお尻に注射をされたとか。NSCでは、ドラフト用の煙突の図面を描き、テクニシャンに合板の裁断を頼んだ。しかし、このところテクニシャンのエルヴィスは多忙なので、作業は16:00以降になるそうだが、急いでないのでかまわないと答えた。

ドライバーのオリバーには、今日から温度などの記録を頼むことにした。8:00から16:00時まで、気温、湿度、気圧、風向などをノートに記録させる。彼は待っているだけの時間があるからお願いしてもいいだろう。でも、今日は12時の観測で打ち切り。午後は、SV研修会でZASTI (Zambia Air Service Training Institute) に行くからだ。

午前中は、今四半期の業務費のまとめをつくり、来期の申請準備をした。

その間にNSCのドライバーのテディー氏がスパナを借りに来たり、来客と会ったりした。テディー氏は年代物のランド・ローバーの左後輪を分解して、ブレーキの部品を交換していた。スパナとニッパーだけでパーツをばらばらにしてから、悪い部分を別の車から採ったパーツに取り替えるようだ。当地の人は、何でも直しながら使っているのは感心する。日曜日には、自動車のエンジンの部品がだめになったので、旋盤で鋼鉄からパーツ切り出して直すとテクニシャンのウンデケ氏が言っていた。

ここ数日、NSCにあるアボガドの木は花をたくさん散らしている。

午後は、ドライバーに暇を出して、自分で運転してZASTIへ。ルサカ国際空港前の検問所の脇に学校の本部がある。敷地は15キロ×15キロ。航空管制、整備、救難消防、気象、通信技術、空港安全、飛行などを学ぶことができる。掃除の行き届いた清潔な施設が印象的だった。SVのN氏と学校スタッフに施設を案内してもらった、タイムマシンで過去に行った印象。パーツが無くて動かない機械や年代物の機械、飛ばない飛行機、モールス信号の練習器、8インチのFDドライブのついた98、ネオン管表示の周波数カウンタ、外側だけの百葉箱、その他いろいろ。この施設でできるだけのことをしようとしているSVや協力隊員の苦労を想像しながら見学した。N氏からは、入学しても授業料が払えずにやめていく学生がかなりいると以前から聞いていたが、あるコースでは、2年何ヶ月かで、食事付きの授業料が3000ドルだそうだ。当地の人々にはかなりの額なのだろう。

研修会の後、ZASTIでコンピュータの指導をしているM隊員をカブロンガが自宅まで送った。途中、メリッサで買い物をして彼のフラットまで行ったが、外見はなかなか清潔そうな建物だった。彼はZASTIのバスで通勤しているが、そのバスだと、ルサカ市内で所員を降ろしながら走って最後に彼の住居に行くのでとても遠回りになるそうだ。

夕方、水道のポンプの作動音がしないのでムルングシ村のオフィスに修理を頼みに行った。エレクトリシヤンが30分ほどしてから到着して、モーターをチェック。オイルが無いかということで、潤滑剤でもいいかと聞いて、KURE CRC 556を渡した。それをスプレーしたら修理完了。556が無かったらどうしたんだろう？

書類仕事

20040624

水道のモーターは順調に動く、一安心。庭師によると彼の近所に住むあるドライバー（日本人に雇われている）の赤ちゃんが下痢で亡くなったようだ。うーん。

NSCでは次の四半期の予算をつくったり、活動計画書を作成したりして時間がつぶれてしまった。今日の午後に教材を印刷しに来ると言っていた先生は来なかった。オフィスにいと一日中肌寒く、電気ストーブのお世話になった。

NSCのドライバーのテディーはランド・ローバーのブレーキ修理を終えた。この車の走行距離は距離計によると22万キロだった。

日本紹介のプリントの作業もした。しかし、やりはじめると辞書のウィンドウを開いては表現をチェックするのでなかなか進まない。でも、紹介なんだからあんまりのめり込まずにやろう。

夕方になって、ドラフト用の煙突をつくる合板をエルヴィスとドライバーが切ってくれた。明日は、これをさらに加工して煙突をつくるのと、書類を仕上げて提出するのが一番の目的だ。ドライバーは天気や気温・風向を記録するのが面白いと言っているがいつまで忘れずにやってくれるだろうか。

煙突づくり

20040625

昨晚のうちに、次の四半期の費用をまとめて、日本紹介のプリントを4枚つくった。ムカンダ氏にプリントの英語をチェックして貰ってから印刷した。通勤してきた所員と挨拶を交わすと、今日は調子が悪いとステファンがいう。事情を聞いてみると口の中が痛いそうだ、口蓋に腫れ物があるのが口を開けると分かった。熱もあり、だるそうなので、ドライバーに病院へ遅らせた。結局、戻ってきてから再び自宅に行き休養した。5日分の薬を貰ったので、5日後に、また診察を受けるようだ。

テクニシヤンのエルヴィスに頼んで、ドラフトの煙突用に合板の一部をさらに切ってもらった。自分の仕事があるにもかかわらず、丁寧に切ってくれたので感謝。そのあとはホット・メルトで合板をとめて煙突が完成した。窓から風が吹き込まなければ、屋外に排気できるようになった。

食堂のカンティーン・アテンダントのレイチェルにはウェブからとった日本食のレシピを渡した。食事に好みがあれば、伝えて欲しいと言われていたから。親子丼とかカレー、肉じゃが、その他なのだが、当地では日本の調味料がほとんど入手できないからそのまま作るのは無理かもしれない。参考までに覚えてもらえばよい。でも、後でレイチェルに野菜料理が無いよと言われた。

食堂の横の部屋には人が住んでいる。そののまだ言葉を話し始めたばかりの子供達を見ていたら、すぐくおびえだして泣き始めて、やってきた母親にしがみついていた。異質な物を怖がるのは正直な反応なのだろう。

昼食時のトーマスの話では、食堂の近くにはバーがあったのだが、近所の高校の生徒が酒を飲んでいたので、廃止されてしまったそうだ。また、彼に雨季の道路の様子や通勤の具合を聞くと、雨がひどい時は、自宅で仕事をしてN S Cには来ないとか。雨季が心配である。

気温は、最高で22.5。秘書のルスはケープを羽織って寒い寒いと言いながら仕事をしていた。

でも、今日中に次四半期の業務費案をJ***事務所に提出できた。来週の半ばまでには計画書を提出しよう。

3回目のチャーチ・マーケット

20040626



当地について3回目のチャーチ・マーケットに出かけた。教会前の歩道?に車を停めて、K1000払うと駐車番の人が自分の名前を書いた紙片をくれる。領収書?それとも車を見ていてくれるのか?前回より少し遅れたが8時少しすぎに入場。30分ほど見て回って素焼きの容器を一つだけ購入した。今日こそはと期待していた中国人の販売する中華饅頭はまだ準備中だった。残念。

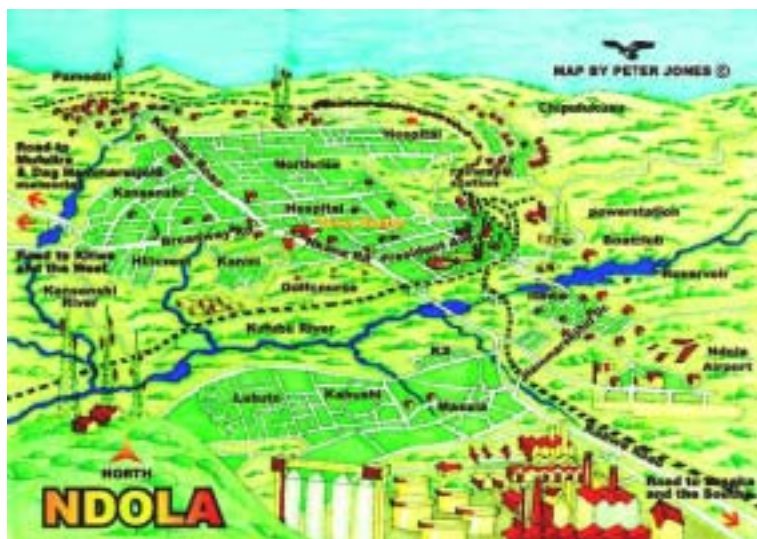
9時からJ***事務所では子供達の勉強会。十分に間に合うように出発したつもりだったが、事務所直前で道路閉鎖にあった。車の列の先をみると、警官が並んでいた。しばらくすると白バイと警備車両に先導されたVIPの車が通過した。大統領だったかな?勉強会では、小学生未満の子供達が七夕かざりを作っていた。竹(笹ではなかったようだ)を振り回してはしゃいでいた子供も多かった。こちらは乾季なので、新暦の7月7日でも旧暦でも晴れるだろう。

午後は庭師の子供の様子を見に行った。庭師にそっくりな男の子の頭皮はきれいになっていたし、末の子も元気だった。しかし、彼も日本人が怖いらしく顔を見ていると泣き出す。次女の顔には直径5ミリほどの盛り上がったできものが二つあった。母親に相談されたが、よく分からなかった。

その後、N S Cへ移動したが、途中で車が渋滞していた。その原因は交通事故。交差点に放置されていた車はいつかたづけられるのだろうか?

ムルングシの借家に戻ってからは、自分で散髪。ちょっと短めでそろっていないが、少し楽になった。

日曜日
20040627



6月30日から7月6日までルサカの北方（道のりで358Km）にあるNDOLAでInternational Trade Fairが開催される。NDOLAのあるCopperbelt Provinceの人口は約165万人である。この催しは国内で最大の展示会だそう、200以上の企業が参加するらしい。Trade Fairについては木曜日に初めてテクニシャンに聞いた。来週の月曜・火曜は、Hero's dayなどで休日、だから土曜日から数えると4連休になる。そこで、行きたいけれどもどうしようかと悩んでいたが、SVのU氏やN氏やA氏のおかげでなんとか宿を取ることができた。始めはNDOLA泊を考えていたがU氏が電話すると主要なホテルはすべて満室。NDOLAから更に道のりで58Km北方のKITWEならロッジがとれるのA氏の話。A氏の教えてくれた携帯電話番号に昨夜のうちに電話をかけて、3日の土曜と4日の日曜に宿泊する予約をすることができた。ロッジの部屋は2種類ありシャワーだけの部屋と、バスタブのある部屋だそう。もちろん安いほうのシャワーだけでかまわない。それほど遠方ではないので自車で行けるし、首都から離れるのは初めてなので楽しみである。（画像はZambia International Trade Fairのウェブ・サイト <http://www.zitf.org.zm/> からの引用）

日曜日は、シーツの洗濯、ご飯を炊いて冷凍などのいつもの作業をして、買い物。午後は、使用人の本契約書を作成したり、寒くも無いのに暖炉を焚いたりしてすごした。

専門家のM氏はN氏宅のカメレオンが餌を採るところを2時間粘って写真に撮ったそう。

契約更新
20040628

使用人の契約は最初の三ヶ月は仮契約。昨夜のうちに新しい契約書を2種類つくった。

一つは月々の給料を上げて、クリスマスボーナスと退職金を減らしたもの。

もう一つは、いままで通りの給料でクリスマスボーナスと退職金が多いもの。

どちらを選ぶか見ていたが、庭師も運転手も月々の支払いが多い方を選んだ。

帰国の時に大金を支払わなくてよいのでほっとしたが、これからの21ヶ月で比較すると、二通りの支払方法は2



50円しか変わらない。彼らの選んだほうが、250円多い。

今日はもっぱらこれからの活動計画書作りで終了。午前中に、マンガ・ヒルで旅行、公共料金の支払い、使用人の給料用のお金をおろしたり、J***事務所に行ったりした以外はほとんどラップ・トップに向っていた。

最も寒い時期だが、日中は25℃まで温度があがり、湿度が50%を切る。ルイボス・ティーを飲みながら、書類を作った。

明日は、これを英文にしたり、次の四半期の見積り依頼に行ったりしたい。

写真は秘書のRUTH。伝統的なコスチューム。彼女は4人の子供のおかあさんでもある。

久しぶりのタウン

20040629



午前中は、活動計画書を英訳して、所長に点検をお願いして終わってしまった。しかし、昨日のうちにドライバーに頼んで、来月分の公共料金を納めてしまったから、生活上の課題は、少しこなしたので少々気楽である。

所長に、週末からンドラのトレード・フェアを見学すると伝えた。NSCはこのフェアに経済的な問題などで展示ができないのだそうだ。

食事の前に次四半期の見積りをお願いする書類を小売店ごとに作って準備。タウンに向って出発。しかし、まずカブロンガ女子高校に向った。NSCの隣がカブロンガ男子高校でその隣が女子高校なので、すぐ近くである。昨日、農業主任のミセス・シチクエンクエがNSCを訪ねて来て、実験室のガスの取り出し口からガス漏れがあるのだが、修理できないかと相談に来た。そこで、来校したのだが、食事時間でなかなか先生に会えなかった。化学実験室の設備を見学しながら待った後、ガスの状態を見せてもらった。NSCで作った石鹼水をガスの出口にたらしてから、プロパンガスと思われるポンベを開けると、ハイ！しっかり漏れていました。

最良の方法は、ガスの取り出し口をすべて交換することなのだが、その話をしたら、農業主任は暗い顔になってしまった。とにかく、今日はタウンでガスの取り出し口も見て、明日か明後日再来校するからと伝えた。ところで、ガスポンベについているバルブにはくっきりと「しまる」と文字が浮き出ている。

その後は、ドライバーとタウンで見積りを集めた。ハードウェア・ショップを2軒、教材会社を1軒まわったが、SVのN氏が航空管制の指導で利用しているスライドプロジェクターのランプ探しもした。「このソケットにあうランプはありませんか」と、何軒も店をまわった。当地では、自分の店に来客の希望する品物が無いと、ありそうな店を紹介してくれる。そうやっていくつもまわったのだが、ミノルタ製のプロジェクターにピッタリのランプは見つからなかった。

タウンからの帰りにはJ***事務所に立ち寄って、提出したが間違えのあった受け払い報告書を受け取った。これは夜のうちに簡単に集成できた。

SVのN氏に依頼されたスライドプロジェクター用にぴったりのランプはなかったのだが、アーケイドで240V用のハロゲンランプを買って、それをなんとかプロジェクター内に収めて投影できるかチェック、プロジェクターの内部に傷を付けるが、なんとか使えそうだということがわかった。

使い古したオイルは

20040630

6月最後の日なので、今日中に活動計画書を提出したかったが、所長にお願いした修正は、朝方、彼が義理の父親のお見舞いに行っていたので、後回し。

昨日、カブロンガ女子高校で撮ったガス栓の写真をテクニシャンに見せて、どこで手に入るかと、どうやって直せるかと、あーだ、こーだ言っていた。NSCのモバイル・ラボにもガス栓が付いているが、カブロンガ女子高のガス栓は、それと全く同じジンバブエ製。NSCにある在庫品を分解して内部をチェックすれば修理の方法がわかりそう。シニア・オフィサのチョンゴ氏の許可が必要だから、彼が出勤してから許可を得て分解することにした。結局、ガス栓の下ネジを締めるか、緩めるかでなんとかなりそうだということが分かった。しかし、ガス漏れがひど

ければ内部にグリスも塗らなければならないだろう。プロキュアメント・オフィサのクリストファはオフィスまでわざわざ別のガス栓を持ってきて、ザンビアでは生産していないが、大手の小売店に相談すれば輸入が頼めるだろうとも教えてくれた。



そこで、これら情報を手紙にして、１０時すぎに女子高へ出かけミセス・シチクエンクエに渡した。今週中にテクニシャンと一緒にまた来校して、修理可能かチェックすることも伝えた。

女子高を出ようとする、JET S (JUNIOR ENGINEERS TECHNICIANS AND SCIENTISTS) のメンバーという生徒が前任者の残した実験例集を手にして、この本にあるスポンジテープは手に入るかと聞いた。はいはい、明日持って来ましょう。ところで、こちらの学校では、午前の部では、１０時から３０分間は休み時間だそうだ。

NSCに戻ると、ちょうど所長が修正を入れた計画書を持って来て、丁寧に説明してくれた。これを清書すれば一応、書類が完成する。その後、１３時までラップ・トップに向って作業したら、無事にできあがった。

建物の外ではオリバーとNSCのドライバーのジョリが車の点検中だった。オリバーが昨日ということには、当地ではエンジンオイルは早めに交換するんですよ、とか。じゃ、何キロ毎だと聞くと、７～８千キロとの返答。日本では３千キロ毎で交換していたというのに驚いていた。オリバーがディーラーでオイル交換すると高価なので、オイルだけを買って、NSCで交換したいと言った。廃油はどうするのか？と聞くと、欲しがっている人がいるから渡せばよいとか。何に使うかと聞くと、家に塗ってシロアリよけにするのだそうだ。でも、当地のガソリンは、ほとんどが有鉛ガソリン。古くなったエンジンオイルも当然、鉛を含んでいるだろうから、シロアリにも人にも有害！

午後は、昨晚のうちに修正した受け払い報告書と活動報告書をJ***事務所に提出してから、再び見積り依頼にタウンへ行った。実験器具店、木材店で見積りをとって、残りの時間で車のオイルとフィルターを購入に向った。ところが、オリバーは断りもしないパーツを店頭で注文して買おうとする。品物と請求書まで貰っていた。それを見て、事前に言うべきなのに、なぜ勝手にやるのか！（こういうときは仮定法過去完了で怒ります）ときつく叱った。必要な手続きや購入品のことをぎりぎりになって切り出すことがこれまでもあったので、事前に許可を取る習慣を付けさせなければいけない。